

平成18年9月5日号「しえばの」 平成17年9月5日号「しえげはん」



「しえばの、あしまだ（それじゃあ、明日またね）」



この桶は、祝意を表して届ける「しえげはん（赤飯）」の容器「おはじ（おひつ）」

**広報担当者が選ぶ  
おらほのことば**

温かい文章とともに情景が目に浮かぶような優しい絵が印象的でした。250点もの作品の中から抜粋して紹介します。

平成22年9月5日号「かだる」



「かぐれ鬼しっさげ太郎もかだれ（かわれ）」

平成23年6月5日号「け」



「け（食べれ）」「く（食べる）」「んだば、えっしょえこ（一緒食べよう）」

平成24年6月5日号「つけひぼの友」



「おれとSとはつけひぼの友（付け紐の友→幼なじみ）だ」

平成18年4月5日号「ちよす」



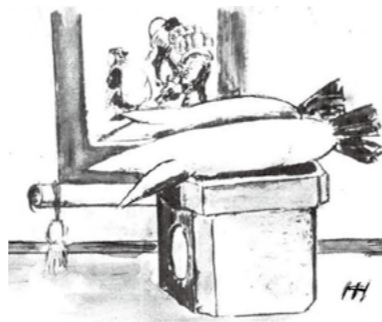
「えが、絶対ちよす（触る）なよ。ちよすでどすくぼこれんぞ」

平成20年2月5日号「あがもも」



「あがもも（ハート）、くろもも（スペード）、ひし形（ダイヤ）、みづっぱ（クラブ）」

平成24年12月5日号「まっかでえごん」



でえごぐさま（大黒様）の日は、まっかでえごん（二股大根）を供える。

平成14年8月5日号「えっぺ」



「ひどーづ、ふたーづ、みーづ、よーづ、いづーづ、むーづ、えっぺ（いっぱい）足して、とおー」

平成26年4月5日号「おぼで」



「たろ、おれ39キロあつけ。わあよかおぼでくなた（重たくなった）ぞ」

自作された河童の焼き物の回も！

平成20年3月5日号「えげぞぞ」



えげぞぞ（粗相）な作品で、河童の子の肌がざらついている。

はぎり じよんばごにおきつむ てづねしよ ねぶかげ にしわし こもじぶとん  
 たでる ふぐ ほろける ま  
 がっご  
 のみで  
 ねまる  
 どんじよしめ こまじげこ  
 かなげ ぞりはぎみぢ セーヨ  
 たろえん んめもの なんどき

全250回  
おらほのことば  
最終回

まげ おまほぎうみのこ ほろあつちえ はしまる じろぶぐばぼんあどきんなご  
 かつま げっぱおじ わあ

ありがとう

か  
 樋渡浩先生

山にあにやきじぼんぼ

樋渡 浩さん  
 (御殿町)

「学校の先生」から  
 「方言の先生」へ

郷土の懐かしく、温かいことばを教え  
 ていただきました。

# 「おらほのことば」初回の紹介

平成12年5月5日発行 広報あまるめ1004号

はじめて寄稿いただいた「えっちよしじ」を紹介

PART. 3

## おらほのことば

シリーズ①

樋渡 浩さん(御殿町)

### えっちよしじ

ほのぼのとあたたかな余目ことばにまつわる遠き思い出の日々のかずかず…。新しいシリーズ「おらほのことば」では、余目町在住の樋渡浩さんから寄稿していただいて余目ことばにまつわる、ほのぼのとした思い出話をご紹介します。



鯉幟こいのぼりが五月晴れの空を泳いでいる。子供の頃、この季節になると、祖父がひく荷車の後ろを押して、よくシンケ（新開）の畑に行った。握り飯を作りながら祖母が言う。  
「流しさ、えっちよしじ」おえっださげ（置いてあるから）水詰めで、テゴ（ワラ製のバツク）さえ入れ（入れなさい）。」  
私は「えっちよしじ」の口にジヨンゴ（漏斗）を当てて水を汲み、キビの芯で蓋をした。当時の流し台は高さが五〇センチほどしかないから、こんな仕事を  
をするには都合がよかった。  
シンケの畑は最上川堤防のすぐ側だったが、井戸もデンシンジ（出清水）もないので「えっちよしじ」を水筒代わりにした

わけだ。「えっちよしじ」は一升、「しじ」は瓶のことだ。  
『貞丈雑記』と言う古い書物に昔の徳利は錫製だったので「すず」と呼んだと書いてあるそうだ。徳利の呼び名が瓶一般に広がり、余目周辺では更になまって「しじ」になったと考えられる。  
和室の宴席では、徳利をじかに畳に置かないようにスズバカマを使う。今、市販されているものは化学材料製だが、古いものは漆器で品がある。スズバカマは錫の袴である。けれども、このことば、相当大きい辞書にも古語辞典にもない。余目周辺だけの呼び名だとすれば、なかなかみやびな方言だ。

樋渡先生が選ぶ

「おらほのことば」

印象的な

### ◎ほしばる

▼意味：夜更かしをする

▼例文：ばんげほしばるから朝ま起きらんねなだ（起きられないのだ）。



### ◎けげし

▼意味：甲斐甲斐しい

▼例文：花子だば、ままざめしたり、掃除したり、とつでも（とても）けげし子だ。



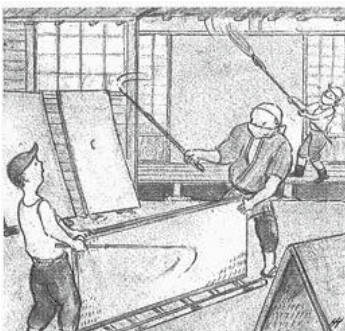
### ◎しえーけづほ

▼意味：清潔法 ⇨ 大掃除

※昭和初期まで、大掃除は「清潔法」という法律で定められていた。

▼例文：きんなの（昨日の）

日曜日はやあうぢして（家族総出で）しえーけづほした。



私が本欄を担当したのは平成12年の春ですから足掛け20年になります。長い間お読みくださったみなさまに厚くお礼を申し上げ、筆を擱かせていただきます。 樋渡 浩